

東京都社会福祉審議会検討分科会

2022年7月5日 オンライン

(話題提供)

「2040年代を展望した今後の福祉施策」 に関するメモ — 家族社会学の観点から —

中央大学・文学部 教授 山田昌弘 (分科会長)

0. 人生**100**年時代の社会福祉とは？

＊ 令和時代の社会福祉を、昭和時代の延長で考えてよいのだろうか？

「内閣府・人生100年時代の結婚・家族研究会」
昭和の時代と違って結婚、家族（そして雇用）のあり方が大きく変わっている。

『令和4年・男女共同参画白書』

「もはや昭和ではない」

0. 人生**100**年時代の社会福祉とは？

* 昭和時代の家族

97%の人が結婚し、10%の人が離婚する。

* 令和の家族

75%の人が結婚し、35%の人が離婚する。

「標準的家族」(結婚して離婚せず、子どもをもって老後を迎える人)
から外れる人が多数派になる時代

1. 社会政策の目的

エスピン＝アンデルセン(1999) ← マーシャル

- 1) 人々を社会的リスク(病気、失業、家族の喪失 高齢など)から守ること
人々が貧困・孤立状態に陥らないようにすること
リスクに陥った人を貧困・孤立状態から脱出させること
- 2) 社会統合を脅かす社会的分断に橋を架けること
貧富の差に代表される社会階層の差を縮める
社会階層の固定化を避けること(世代内、世代間)

* 現行の社会福祉・社会保障制度

今後、社会的リスクから人々を守ることができるのだろうか？

今後、社会的分断に橋をかけることができるのだろうか？

2. 現行の日本の社会保障制度の二つの特徴と問題点

1. 標準的家族(ライフコース)を前提

- * 誰でも望めば、正社員(安定した自営業)に いつでもなれる
- 誰でも望めば、30歳位までにみな結婚し、離婚しないで高齢を迎える

2. 家族主義

経済問題やケアは、全て家族の中で解決するのが前提

- * 家族の中に正規雇用者がいて、人並みの生活を負担できる収入がある。
- * 家族の中に時間的にケアできる人がいる

2. 現行の日本の社会保障制度の二つの特徴と問題点

- ✓ ①標準的ライフコースを送る人の人並みの生活の保障
- ✓ ②標準的ライフコースから外れた人を一律最低保障に落とし込む

<公的保険>

標準的ライフコースを送る人でも陥るリスク(長寿、病気、失業)への対処
→ 保険料を負担できるフルタイムで働く大人が必ずいる

<公的扶助>

標準的ライフコースが形成できずに貧困に陥った人への最低保障
→ 生活保護: **全部失わないと使えない**

2. 現行の日本の社会保障制度の二つの特徴と問題点

* 現行の社会保障制度の問題点

1. 標準的ライフコース前提の問題点

* 標準的家族ライフコースをとっている人 リスクから守られる

正規雇用・男性 雇用・収入は日本的雇用慣行で守られる、失業保険、厚生年金、扶養している妻に対する手当

正規雇用者と結婚している女性 税金、社会保険優遇、遺族年金

(唯一のリスク現役夫の死亡に対しては、高額生命保険)

* 標準的ライフコースをとっていない人 リスクに晒される

非正規社員・フリーランス・自営業男性 放置

非正規・フリーと結婚している女性 放置

2. 現行の日本の社会保障制度の二つの特徴と問題点

* 現行の社会保障制度の問題点2

2. 家族主義の問題点

* 家族を持つことはリスクとなる。

未婚化、少子化、離婚、虐待を増加

リスクがあるような結婚、出産はしない(結婚、出産を抑制)

リスクに陥った相手を家族から排除(離婚、虐待)

* 子どもにとってどの親の元に産まれるかは選べない

親が子どもの費用を負担するのが原則

親が「細い」子、親がいない子 どこまでいっても不利になる(進学、奨学金返済、結婚————)

社会的分断を加速

3. 家族の変化に社会保障制度が追いついていない例

* 非正規、フリーランス増大に対応していない社会保障

1. 夫フリーランスの専業主婦の妻は「保険料」を支払う義務あり
専業主婦「夫が脱サラして起業、それと同時に、無収入なのに保険料納付義務が生じた、三号被保険者制度は収入の少ない(専業)主婦に報いる制度のはずでは」(元学生)

夫の雇用が不安定な人の妻 ふんだりけったり(守られない)

2. 出産してもサポートがない、夫自営業、妻パート
「出産しようとしたら、手当は出ない、公的扶助(出産一時金)も雀の涙、パートはやめざるを得なかったし、育休手当などももちろんない、子育てサポート環境なんて別世界」(元学生)

* 夫が正社員(公務員)の妻には、出産給付金がある事が多い(保険組合支給)、

* 女性本人が正規雇用でなければ、産休も給付金も育休もない

夫も自分も正規雇用でない夫婦、ふんだりけったり(守られない)

3. 家族の変化に社会保障制度は追いついていない例

* 遺族年金の不公平

3. 遺族年金で豪邸を建てる

25歳位年上の男性と結婚した外国人女性、男性死亡後帰国、遺族年金を送金して貰い、子どもと一緒に母国に豪邸を建てて暮らしている。再婚しない限り一生貰える。(タイのチェンマイでは、年金あり高齢日本人男性がモテモテ)

* 保険料を払う側としては、不満が。

4. 遺族年金を期待して離婚できない

「DV夫だけど、離婚するのは経済的に無理、だから、夫が寝たきりになったら復讐してやろうと思う。」(中高年夫婦調査より)

* 女性は夫に扶養されることを前提とした制度、自立を阻害し、DVの温床に。(夫の遺族年金受給訴訟 最高裁敗訴 — 「女性に扶養される男性は存在してはいけない」ことを最高裁が認める)

3. 家族の変化に社会保障制度が追いついていない例

* 不公平と少子化を助長する現行の「奨学金制度」

5. 借金を背負う若者と背負わない若者

女子学生「母親に奨学金借りている人とはつきあってはいけません」と言われた。人生相談サイトにも、「婚約者が奨学金を借りていることが分かった、別れるべきか」といった相談が男女、親本人問わず広がる。(現在大学生の半数が奨学金返済という借金を背負う)

* 社会人のスタートラインで差がつく、**少子化の一因に**

6. 「親ガチャ」「太い親、細い親」

親が授業料払える学生と、そうでない学生の格差拡大。(「親と夏休み海外旅行に行った」学生と、「親に就職したら弟妹の学費を払えと言われている」学生が共存)

* 本来、リスクを軽減するはずの奨学金制度が、**格差の再生産に寄与し**、新たなリスクを産む(私が借りていた奨学金約500万円は、当時の免除制度のおかげで全額免除になりました、感謝)

4. 時代の変化と社会保障制度の問題点の顕在化

* 高度成長期－1990年頃まで

標準的ライフコース ほとんどの人が辿れた

自営業　－　安定して存続できる(世代内、世代間)
(政府の保護、規制　例: 零細農家、商店)

被雇用者－　男性は必ず正社員(公務員)になれ、定年まで 勤められる(労働需要が旺盛)

女性　　－　自営業者か正社員と結婚でき離婚しない
(非正規パート、アルバイトは家計補助にすぎない)

若年者　－　近代家族形成・維持が可能

4. 時代の変化と社会保障制度の問題

* 1990年以降

標準的ライフコースだれでもとれるものではなくなる

① 雇用の多様化、非正規雇用の増大

フルタイムで働いても妻子を雇う収入が得られない人の増大

② ライフコースの多様化

未婚、離婚、子どもなしリスクの増大

* リスクに晒される人の増大

* 階級分断の加速

4. 時代の変化と社会保障制度の問題

* 「標準的家族を形成、維持できる人」

従来の社会保障で守られる人 その割合は、徐々に低下

家族の中に十分な収入を得る人が一人以上いる 相対的多数

生活—いままでと特に変わらない 社会変化の動機なし

* 「標準的家族を形成、維持できない人」

従来の社会保障制度で守られない人 徐々に増大

家族がない(単身者)

家族がいても、十分な資源がない(家族全員不安定収入)

今、家族がいても将来いなくなる(中高年パラサイト)

5. 今後の課題の例 独身者リスク

- 親同居未婚者の中高年化 20年後の最大の社会問題(80-50問題)

2015年 35-44歳の中年親同居未婚者、約300万人

今はよいけれども――、親が亡くなった後どうなるのか？

誰も分からない ― 今まで前例がないから

経済的問題 親なき後の自立生活困難になる人の増大(女性に多い)

心理的問題 孤立(世間体社会―主に男性)

無縁死の増大(現在年3万人程度 2050年ごろには年30万人)

将来に絶望する独身者の増大(誰も家族がいない) 「無敵の人」

5. 今後の課題の例 独身者リスク

- 50代の婚姻状況 2020年国勢調査(不詳は案分処理されている)

	男性			女性		
	有配偶率	未婚率	離死別率	有配偶率	未婚率	離死別率
50-54歳	65.5	26.6	7.9	70.2	16.5	13.4
55-59歳	69.2	21.6	9.2	72.3	12.2	15.5
	有配偶者	未婚者	離死別者	有配偶者	未婚者	離死別者
50-54歳	288万	117万	35万	305万	71万	58万
55-59歳	273万	86万	37万	287万	49万	61万

5. 今後の課題の例 独身者リスク

- **50代独身者**(未婚離死別含む)調査(山田科研費、2022年2月ネットサンプル 1126ケース)
- 「将来、高齢になって下記のような不安がありますか」の回答(全体、%)

	大いにある	ある	あまりない	ない
1. 経済的に十分な生活ができなくなる	45.6	31.5	14.3	9.6
2. 十分な介護が受けられなくなる	42.2	36.9	12.9	8.0
3. 孤立して寂しい思いをする	34.2	34.3	20.4	11.1
4. 孤独死してしまう	41.7	33.0	15.7	9.5

特に、子どもがいない女性、低収入の男性の不安が大きい。

5. 今後の課題の例 社会の分断

「親ガチャ」「太い親、細い親」

若者の親(50代)に格差が広がり、その結果、その子どもに格差が

* 奨学金という借金を借りている大学生、**約半数(この割合微妙)**

学費の高騰+親の収入の格差拡大

* ヤングケアラー

ケアを任せられる子ども

収入の少ない親は共働き、ひとり親 親の親の介護のしわ寄せ

5. 今後の課題の例 社会の分断

* 家庭の教育力格差

新しい経済 — 非認知的能力(教養、英語力、コミュ力、デジタル力)が重要

文化資本の多寡 仕事で英語を使う親、家でパソコンを使う親

そうでない親の元で育つと単なる学習では逆転できない

親のインテリジェンスによって格差

* 若者、社会生活をスタートする段階で格差がついている社会に

5. 今後の課題の例 社会の分断

* 令和以降？ 格差固定社会

世代内でも世代間でも格差が逆転できない状況の広がり

背景

- * 格差上位親は、子どもにその地位を引き継がせたいという思い
→ 欧米に比べ東アジアでは、子どもへの投資が親の生きがい
- * 経済が拡大どころか縮小する
→ よい職の数、よい結婚相手の数(女性にとって)減少する。
→ 欧米、移民が常に下に入ってくるのに、日本はない
- * 日本格差固定社会へ

「親ガチャ」 諦めの言葉

5. 今後の課題の例 お金とマンパワーは足りるのか？

平成以降の社会、経済状況

少子高齢化による経済停滞と労働力人口減少

* 福祉にかけることができる「お金」足りるのか？

経済成長率先進国の中で最低水準
(給料が減る中、増税可能？ ボランティアするならアルバイト)

増える福祉需要 今の福祉水準維持できますか？

* 福祉にかけることができる労働力足りるのか？

子ども数の急速な減少 高齢者の増大

必要な福祉労働力の増大 今の福祉水準維持できますか？

(家族がいない人が増えるので、家族に戻ることも出来ない)

* とんでもない人数になるはずのお金のない独身者 放置されるような気がするの杞憂？